



●紹介「つくることばいきることば」

【著者】永井一正 【出版社】六耀社

著者は日本のグラフィックデザイナーの第一人者であり、札幌冬季オリンピックのマーク、アサヒビールのCI、JAグループのロゴマーク等の作品がある中で、この本は動植物をモチーフとした「LIFE」シリーズの銅版画と氏がそうありたいと願ってきた言葉の本である。生きることの悟りのような納得感を覚える一冊である。

命の章から「幸せであるには、命が最大限に生かされなければならない。」

想像力の章から「つたなくてもいい。一生懸命は尊い。」

魂の章から「生きている限り必ず老いるし、老いると体は死の準備を始める。

老いを充実させることは、心を充実させることにかかっている。

永井一正氏は2月23日ご逝去されました。

ご冥福をお祈りいたします。

(副主査：渡邊裕美)



●「表色値変換」考

色を表す方法のはじまりは、言葉つまり色名で、その後、ある規則に基づいて色を体系的に表す様々な表色系が誕生します。

表色系に求める機能は、色を正確に表す、色の見えを表す、色の差を表す、配色の指針を与えるなど様々で、一つの表色系でそれらに対応するのは難しい。そのため表色値を変換する必要があります。

例えばXYZ系のYxyからマンセル系のHV/Cへの変換です。当初はJIS Z8721付図1～9のようなx y色度図に描いたマセル系の色相線と彩度線を用いて、図的な補間で求めていました。手間と時間のかかる作業で、精度やバラツキも課題でした。そこからパソコンの活用がはかられます。Yxy → HV/C変換のアルゴリズムは、登山ルートのように様々なものが開発されていて、普通は中身までは見えませんが、コンピューター・プログラムの演算過程やデータ格納には作者の知恵と工夫が注ぎ込まれています。

他にXYZ系からPCCSヒュー・トーン系やNCSなどへの表色値変換プログラムも開発されています。

手作業と手計算、手作りのプログラム。懐かしい思い出です。
(久下靖征)

●大辞泉ひろいよみ 116ーし

絞染：しぼりぞめ。染料が浸入しないように、布地の所どころを糸で固く縛り、染料の中に浸して白い染め残しを作る染色法。また、その模様。括り染め。括し染め。

絞り木綿：しぼりもめん。括り染めにした木綿木綿。

絞り紋：しぼりもん。括り染めで表した紋所。

紫磨金：しまごん。紫色を帯びた純粋の黄金。紫磨金。紫金。

染め衣：しめころも。色を染めた衣。

染め木綿：しめゆう。染めた木綿。

視野：しや。外界の1点を凝視するとき、その点を中心として見える範囲。視力の及ぶ範囲。顕微鏡・望遠鏡・写真機などの、レンズで見ることのできる範囲。物事を考えたり判断したりする範囲。

視野狭窄：しやきょうさく。視野が縁の方から、あるいは不規則に欠けて狭くなる状態。緑内障、網膜剥離などでみられる。

赭顔：しゃがん。赤みがかった顔。あからがお。

弱視：じゃくし。視力が弱いこと。眼鏡で矯正することができない物をいう。

赤銅：しゃくどう。銅に金三～四%と銀約1%を加えた合金。

*大辞泉：小学館発行国語辞典 (永田泰弘)